

デジタルを活かすアナログナレッジ養成拠点

(実施期間：平成 21～25 年度)

実施機関：群馬大学（総括責任者：高田 邦昭）

プロジェクトの概要

座学と実習を組み合わせたアナログナレッジ養成、講師育成による人材の拡大再生産、講師をアナログ・エキスパート・グループとして組織化することで企業の研究開発における課題の解決を受講生とともに図るアナログ工房講座を拠点の3本柱として人材育成が駆動する地域再生を図る。座学講座、実習講座、アナログ工房講座、講師養成講座で年間 400 名以上の修了生を輩出する。運営、カリキュラム、到達度評価は企業人と大学教員からなる専門委員会が責任を持つ。成果を人材育成に限定せず、講師育成、講師ネットワークを活用した企業開発支援までを行う仕組みを創出し、企業が抱える人材から開発に至る課題を、本拠点が地域の知の拠点となり産学官が一丸となって解決していく。

(1) 評価結果

総合評価	進捗状況	人材養成手法の妥当性	実施体制・自治体等との連携	人材養成ユニットの有効性	継続性・発展性 の見通し
A	s	a	a	a	a

総合評価：A（所期の計画と同等の取組が行われている）

(2) 評価コメント

「アナログ技術立県」の名の下の地域再生計画と合致する取組であり、地域企業のニーズや技術者のスキル・技術分野に対応して、カリキュラムの体系化やトップ技術者養成コースの新設など積極的に実施してきたことは評価できる。養成人数も所期の目標を大きく超えて達成し、地元で活躍する人材を多く輩出しつつ、「大学の地域貢献度ランキング」で第1位になるなど、社会からの評価も高い。今後は、国際化の進展、技術の革新など市場・技術の急激な変化も起こり得ることから、環境の変化に柔軟に対応してカリキュラム体系の改善を継続していくことを期待する。

- ・ **進捗状況**：座学・実習を組み合わせたアナログナレッジ養成講座、アナログ工房講座、講師養成講座とも地元企業等から多くの受講者を確保し、修了者数が目標人数を大きく超えて達成したことは高く評価できる。また、地域ニーズの変化に柔軟に対応して、トップ技術者養成のための「エキスパート養成コース」を新設したことも評価できる。
- ・ **人材養成手法の妥当性**：地域ニーズを反映し、受講生の習得すべき技術力と専門性に対応したコースとカリキュラム体系が整備されるなど、人材養成手法として妥当である。また、受講生や企業上司からの意見を取り入れてニーズに的確に対応していることも評価できる。
- ・ **実施体制・自治体等との連携**：本ユニット運営のための委員会など大学の支援体制は妥当であり、群馬県やNPO法人等との連携は適切に行われていると評価できる。

- ・ **人材養成ユニットの有効性**：修了者は、地元定着率も非常に高く、企業で新製品開発や開発効率化への貢献、社内研修講師としての活躍など、地元企業で実績を上げている。また、企業内研究課題を家庭教師方式で対応するアナログ工房講座の取組は、今後、プログラム効果の拡大、共同研究の促進等に有効と評価できる。
- ・ **継続性・発展性**の見通し：受講料徴収の仕組みを構築し、プログラム終了後に「アナログナレッジ人材育成センター」を設立する計画を自治体や関連企業などと協議するなど、事業継続に向けて前向きに取り組んでいることは評価できる。